

平成三十一年 秋

紅葉（いろ）映えて 色なき風に 彩（いろ）染める
また一つ 手元離れし やりがいが そつと幕引く 学会発表
凡人の 生きることとは 詰まるところ 食うて息して ただ眠るだけ
光はね 光染み入る グラデーション 影も優しき 錦秋の朝

平成三十一年 冬

初雪や 新調の橋 濡れてをり （山中温泉興招橋）
苔伝い 辿り着きても 瀬にもまれ
流水に 落水の音 混じりいる 鶴仙峡の 水の豊かさ
光吸う 露に染み入る 冬景色
我は好き 酔って夜寒に 一人座す
初日の出 光の路（みち）に 鴨の癸つ

平成三十二年 春

人絶えて 嬉し淋しき 花盛り
若紅葉 揺れて届きぬ 風便り
鳥影が さつと地を掃く 風立ちぬ
マスク圧 息することに 囚われて ジョギング中の 作詩難かし
ミニヒットラー 世界中に 現れて コロナ戦争 大戦化する
若楓 爪先下げて 雨垂らす ポトリポトリと 数数えつつ

平成三十二年 夏

供養せん 我が軒先に 巣作りて 天にめされた 一寸の魂
紫陽花の 蜂の巣ごとき 枯れ果てて